

衆院補選
統一地方選

沖縄3区 新基地NO! 屋良氏圧勝

21日投票で、衆院補欠選挙と統一地方選挙後半戦が行われ、沖縄3区のデニー知事の後継「オール沖縄」の屋良朝博氏が自公維候補に圧勝、大阪12区でも自公は維新に敗北し、安倍政権は大打撃を受ける結果となりました。

政権は「新基地中止」「普天間無条件撤去」求めよ

衆院補欠選挙の結果について、21日夜、日本共産党志位和夫委員長は、党本部での記者会見で「屋良朝博氏の勝利は、強権的に辺野古埋め立を進めてきた安倍政権に対する沖縄県民の大きな勝利です。『辺野古新基地建設』の是非を最大の争点にたたかわれた選挙で、自民党候補が初めて『辺野古推進』を公然と掲げての敗北は、自民党に

とって『新基地ノー』のとのめ審判が下されたこととなります」

「日本共産党は、安倍政権に対して、選挙結果を真剣に受け止め、辺野古新基地建設を直ちに中止し、普天間基地の無条件撤去を求め米国と交渉することを求めるものです」と述べました。



当選確実の報道に、玉城デニー知事（左から3人目）や支援者とともに喜ぶ屋良朝博氏（その左）
21日、沖縄県沖縄市

“市民と野党の共闘”を前へ

同時にたたかわれた大阪12区補選で、現職衆院議員を辞職し、市民と野党の共闘候補として、無所属で出馬した宮本岳志氏が、6党会派の国会議員等や市民多数の応援・激励を受けてたたかいましたが、及びませんでした。

選挙戦で示された共同は、7月の参院選での市民と野党の共闘の発展につながるものと確信します。

県内地方選で日本共産党前進

日本共産党は、茨城県内市町村議員選挙に25人の候補を擁立してたたかい24人が当選。牛久市では3議席から新人2人を含む4議席、筑西市では2から3議席に前進。共産党議席が空白であった利根町で、議席を獲得することができました。

市長選挙は、前回41.58%を下回る38.56%と過去最低の投票率の中、現職藤井信吾氏が18,663票（前回比2,487票減）を獲得し、新人竹原大蔵氏に2,889票差で4選を果たしました。藤井氏が、桑原地区開発とともに進める取手駅西口開発は事業開始後26年を経過。過大な開発はバブル期そのままで、ずさんな計画が事業費を限りなく膨張させ、生活基盤と教育・福祉

取手市長選は現職藤井氏再選

を圧迫しています。再選を果たしたとはいえ、前回選挙からの得票減と低投票率、全有権者の20%という得票結果に配慮すべきです。同時に行われた市議会補欠選挙（定数2）は、無投票となりました。日本共産党は、市長選は自主投票、市議補選も出馬を見送りました。

7月参院選と合わせ来年1月市議会議員選挙でのみなさんのご支援をどうぞよろしくお願いいたします

市長の接待疑惑の解明を求める 市民と超党派議員の市民集会



活発な意見や、提案が出された市民集会＝4月13日、ゆうあいプラザ

補助金交付団体から市長と市職員が京都祇園で接待を受け、その後の補助金交付につながったとの疑惑が浮上した問題で、3月定例議会に市民団体が1550筆の疑惑解明を求める請願署名を提出しましたが、議会は、チェック機能を果たす役割を放棄して請願を不採択としました。

また、市長の接待疑惑を解明するため政治倫理審査会に、市民が調査請求を行ったが、「政治倫理基準に違反するとは認められなかった」と回答しました。審査会は、市長や関係者から事情を聴く

ことも、必要な調査をすることもなく結論が出され、しかも公開されるべき審査会は、最初から非公開で行われました。

4月13日に開かれた市民集会で、これまでの経過と結果の報告が行われ、参加者から「二元代表制の議会がチェック機能を果たすべきで、もっと調査すべきだ」「政治倫理審査会の審査結果は納得できず、再調査を求める必要がある」など質問や活発な意見提案が出されました。

市長の責任や議会の役割が問われた集会となりました。



県民投票を実現させよう！

東海第2原発の再稼働には県の同意が必要ですが、知事は県民の意思をどのように確認するか、明言していません。

そこで原発の再稼働について、広く県民1人ひとりの選択を表すことができる「県民投票」の実現を目指します。県民投票条例を直接請求する署名集めに、あなたも参加しませんか。

話そう、選ぼう、いばらきの未来。

会の連絡先 TEL:070-5079-6308

TEL:090-4706-2363

FAX: 029-307-4182

e-mail:ibarakitohyo@gmail.com

取手駅西口開発

取手市最大のプロジェクトに200億円投入

市長選挙のたびに一大争点となってきた取手駅前開発。取手市が駅西口前の区画整理事業に着手して26年。2019年度予算を含みこれまでかけた税金は基盤整備だけで約160億円。ウェルネスプラザなどハコモノ建設を合わせて約200億円に上ります。

本年度は、駅直近「A街区」のビル群解体等に、約27億円を投下する予定です。



今年度解体予定の取手駅西口ビル群

34階建てタワーマンション計画 事業費は148億円

ビル解体・造成後の「A街区」7000㎡には、地権者組合施行による34階建ての再開発ビルを計画。ビルの低層部1～2階に店舗、3～4階に公共施設を配置。5階以上の上層部に住居300戸（5～34階）を配置する計画です（2018年1月取手市公表の事業提案概要）。公共施設は、3～4階を取手市が買収しサテライト図書館や保育施設等の導入を検討します。



2018年1月、市議会提出事業提案書概要イメージ図

ビルフロアー買収で図書館・保育所？

取手市にすでに図書館2館、西口前（ボックスビル横）には民間保育所もあります。そのうえ必要ならば、ビルオーナーも求める「旧再開発ビルの空きフロアー」（市施行）の活用もできます。

新たなビル建設（フロアーの買収）に市税を投入することはありません。



取手駅西口前旧再開発ビル（リボンビル）

「A街区」再開発事業で マンション+駐車場ビル+歩行者デッキ

再開発事業区域（A街区）内には、マンションビル別棟に、5階建て駐車場を予定し、それらのビルに、西口ペDESTリアンデッキを延伸・回遊させるとしています。歩行者デッキ延伸の為の事業費等は不明で、これまでの区画整理事業に加えて「A街区開発」への税金投入は膨らむばかりです。

34階建ビルの導入施設と事業費の概要

商業施設1・2階	面積	3,300㎡	
公共施設3・4階	面積	3,300㎡	（取手市の床買収価格16億8000万円）
住宅5～34階	面積	28,200㎡	（300戸）

資金計画	金額	割合
再開発補助金（国・市）	31億7,460万円	
防災省工ネ緊急促進補助金	3億9,940万円	
補助金計	35億7,400万円	24.2%
保留床処分金	112億1,900万円	75.8%
合計	147億9,300万円	100%

取手駅西口開発 日本共産党の提案 「交通広場」最優先の整備で安全・快適な駅前に

- ・ 限りなく事業費を膨張させる市街地再開発改め区画整理の早期収束で事業費縮減を
- ・ A街区整備は、取手市とデベロッパーの誘導やめ地権者主体に再開発事業の見直しを
- ・ 西口駅前に必要な公共施設は、空きビル活用で西口開発の事業費縮減を



A街区 再開発事業計画区域
旧再開発ビル（リボンビル）

取手駅西口開発（区画整理事業）区域図